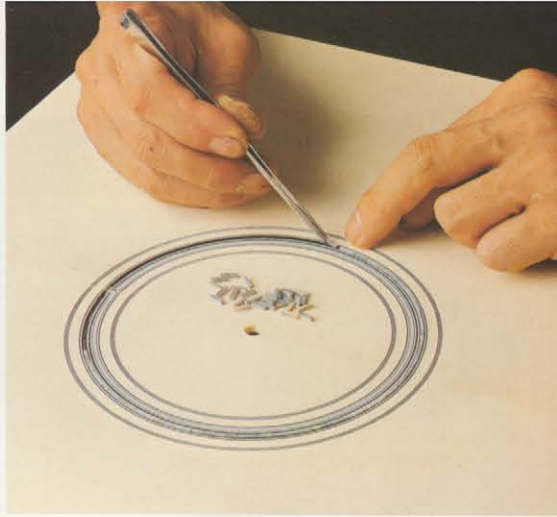
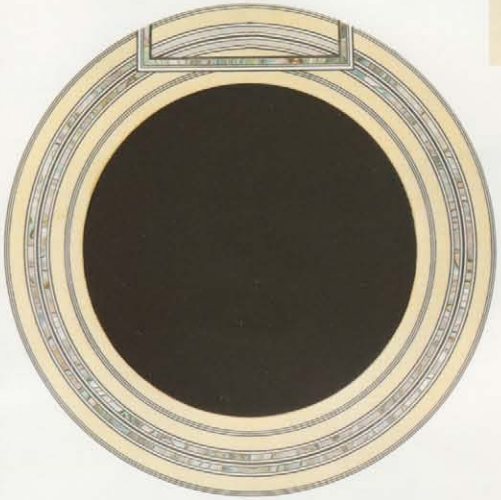
どんな名工が創っても木が良くなければ優れたギターになりません。

製材しても木は生きています。そのため、すべての
ギター製作工程の前に木の乾燥があります。完成された
ギターに、ソリ、割れなどの狂いが生じないように
日本の気温、湿度、天候になじますため自然環境の中で
長期間、天然乾燥されます。さらに
コンピューターで管理された人工乾燥室で
木のもつ水分(含水率)を一定にします。ギターの耐久力
音を決定する大きな要素が木の乾燥なのです。
それぞれ材質が異なる木が組み合ったヤマハギターの
抜群の耐久力と優れた音の原点は、こうした
目に見えない工程が理想的になされているからです。

どんな優秀なクラフトマンが作ったギターでも使われている木が
悪ければ本当にいい音は出てきません。木がギターの生命です。
ヤマハはギター材として世界的に注目されている
北海道のえぞ松をはじめ南米、インド、アフリカ、北米など
世界各国から良材を購入。常に良い材料でギター製作が
できるような体制をとっています。
厳選して集められた木材は不必要な樹脂分を抜いたり、
製材前の木の割れを防止するために大きな貯水池に
入れられギターとなる日を待ちます。



表、側、裏板のバインディング、サウンドホール、
ヘッドなどの象嵌入れはギターにいっそうの気品と
豪華さを加える全工程の中のひとつのハイライトです。
モザイク模様の象嵌は、各色に美しく染め上げた
約0.2－0.5mmという極薄の単板をいく枚にも重ね、さらに
それを組み合せて作成します。また貝の象嵌は細長く
加工したメキシコアワビ貝などを象嵌入れ部の
溝に合せひとつずつ入念に埋め込んでいきます。繊細で
華麗な象嵌の美しさはこのような精巧な技術に裏づけ
されたクラフトマンの手で創造されるのです。



ギターの音色や音のたち上りを大きく
左右するのが表板の材質です。
そのため軽く、よく響く、しかも耐久性のある
えぞ松、スプルースが良材とされています。
また音は木目にそって振動するので良い音を
得るには木目幅が中央ほど細かく詰まり、外側に行くに
したがって広くなる材質を厳選して使用します。
ブックマッチと呼ばれる一冊のノートを開いたような
左右対称のカタチで表板、裏板、側板の木取りが
されるのも音色、レスポンスなどを極限まで追求した結果
なのです。完成されたギターの表板が光線などの関係で
左右の色が違うこともありますが、これはブックマッチ方式の
木表、木裏が現われるためで自然な現象です。